

令和3年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 枝光台 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和3年5月27日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学)

教科に関する調査(国語、数学)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

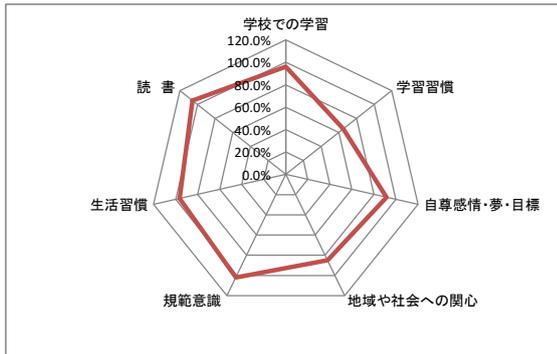
(1) 全国・本市の学力調査(国語, 数学)の結果

本年度の結果	国語		数学	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.8	63	8.8	55
全国	9.0	65	9.1	57

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・中位層の正答数が極端に少ない部分があり、二極化の傾向が顕著である。 ・読む能力が全国平均を超え、NIEの取り組みの成果がみられた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	話し合いの話題や方向性を捉えたり、文脈に即して漢字を読んだりする問題が全体的にできている。	
	努力が必要な問題	書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書いたり、考えて理由を書いたりする問題に努力が必要である。	
数学	全体的な傾向や特徴など	・無回答の割合が低く、問題に意欲的に取り組む姿勢がみられる。 ・全国平均は下回るが、短答式の問題は正答率が高い傾向にある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる問題が全体的にできている。	
	努力が必要な問題	整式の四則計算の正答率が全国平均より低く、記述式の問題に努力が必要である。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「人の役に立つ人間になりたい」「いじめはだめなこと」と肯定的に回答した生徒が、全国平均を上回っている。 ・「読書を一時間以上している」生徒は、全国平均を上回っているが、不読率も高いため、年間を通して全体的にあげていきたい。 ・話し合う活動については、肯定的な回答が全国平均を上回った。また、相手の話を最後まで聞き、授業を理解しようとする姿勢がみられた。 ・「学校の授業以外の学習時間」が、平日・休日ともに、全国平均よりも大きく下回っている。学習を自ら取り組む習慣を目指していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・数学の授業では、3年生の授業を2人の教員により、教科書を進める授業と基礎基本の復習に分けて行い、カリキュラムをマネジメントして実施し、基礎基本の定着を目指している。
・話し合う活動をすべての教科で行い、相手の意見を最後まで聞き、授業を理解しようとしている。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・家庭学習を1時間以上する生徒の数は、全国平均を下回っているが、経年で比較すると少しずつ増えている。毎日の家庭学習の取り組みや、週末のNIEの活動に取り組んでいる成果と言えるため、今後も継続していきたい。